

仲
衛
艶
鈴

特別

~ 13

3633

47



特

門へ13
號3633
卷47

昭和二十二年六月八日
宮川量重氏寄贈

序

群督圖書

圖書

暖中風子翫あつちゆうふうしけんが名なのな 

現いまはは膝ひざをを暖あつとしてして色いろもも易やすき

唐たう土どのの物もの紅べに花が忘わすれれぬぬおお毎まい日にち下くだる

通とひひ事ことのの名なはは妓き女にょのの記き号ごう也や 

先まにに建たんん中ちゆう裏りのの小こ指さしもも及およびび怒いかりり也や

空襲幸し一切遊の十二交二交の駒は
合して一部の書を書きす高慢の光
あま堀後の足付も高く夢さぬまの
癖と穴百以山と筆を採作者六當
者突出し猿籠沢も名達の特狂
之晋謝安小機忠元てトウワトト

大序一

挽之味小氣い一止の發唄か糸乃
窓のおの糸小止てある妓女と一寸さ
いり借駒のちぢく糸の糸も朝暮
茶お屋のこころを喰食窓の控八を
形る支鳴呼忍入おもは極又おんを
替りは先吉の理をかんたを特を

鴉たまといのり草羽織うそもた顧くろす寸管すんとて此こ後ご
 の送おくり也なり了なり。吊毛このりよ此この婦ふ子こをた至えとあり
 蝶つ場たのつ往い又また居いておおの怪まのゆ又また定じを
 遠とほしか法ほう連れんカカ内ない定じとと爾なん云いふ
 于時このとき寛政このとき十じゅうのとをいしま夫お

山東住自懸子



序二

自序

了てん快ち天てん戲け場じやうとのやと人じん摺すりの
 義ぎとの何なにれの身み通と乃の本ほん并びやう義ぎ
 何なにとの大だい暖ぬ簾せんものもの角かく小せう戸こ
 あのまの表ひょうとの櫓ろ何なにとの式しきとの妻つまはの義ぎ
 義ぎとの表ひょう何なにとの義ぎとの人じんののりの
 此こののりの手て法ほう有あ妓ぎ女にょはの並びやうしの義ぎと

留場りゅうじやうにつくし星ほしくりくりく見物の
形かたちにつくし寶物たからもの共ともくし鬼おには失ふし
世帯よど乃すなはち志うまの遠とほく時ハ
殺ころに執書しよ乃た倦うえしまりお吟いん
飯いひくらしと勤苦く懲ちやう悪あくは留のに
多おほ量りやう金銀かねぎんを陳皮かわ乃どく抱
捨するやしぎくるまん人ひと級い金ぎん吉きち

序一

爵しやくのくりと星ほしはいいんや
濫らん安あん人ひとのに何なに男おとこも張子こ
何なにの碗男おとこと淫女めづの媚威い
と強老らう成じやう法ぽう早はやのつくし
是この乃作しやく者しやの三木ぼく
もりり鬱然じやんを恨らんや
現げん存ぞんを人の宿を云々いら

新しきや〜

おまのしかりしよ

アチ〜

赤松仙郎

三多樓主人

石はらち〜

戲家迹

平代橋の

長き日

長き日



序

東乃世界と目録本といへ

人皇の御宇と神功白皇后御宇と

髪を洗ひぬぐふと髪質差りて

髪と小壘川元結うめ夫ハ弁と

朱リ鶴ハ仕擗の腰帯とねし羅の鞠

多狭おあを出しま内なる糸ハ為若きまを

う多歩就急乃名玉ハ舞火の筒

のりつりよきと花し一乃きつたのこま
旭輝き二朝茶屋の翅板よ度丁
光り一之間重の通一矢よトキのおまを
發と置け算り一糸魚を寄又玉
庭渾乃家根多鴻乃きつた遠見一
六万坪乃裏浪用銭と吹せん又ト
乃縁香づく陣取と好し八幡大盛
と来く一廓と梅へ羽織社よ

序一

三伝らりうそて責とせ既川
乃深くはうんともてて素を捜し
仲佳勢流と略小冊よ綴り小春の眠を
更し終ハ紙次が鳥居筆重く入らん
お起さむらうの筆を採つ

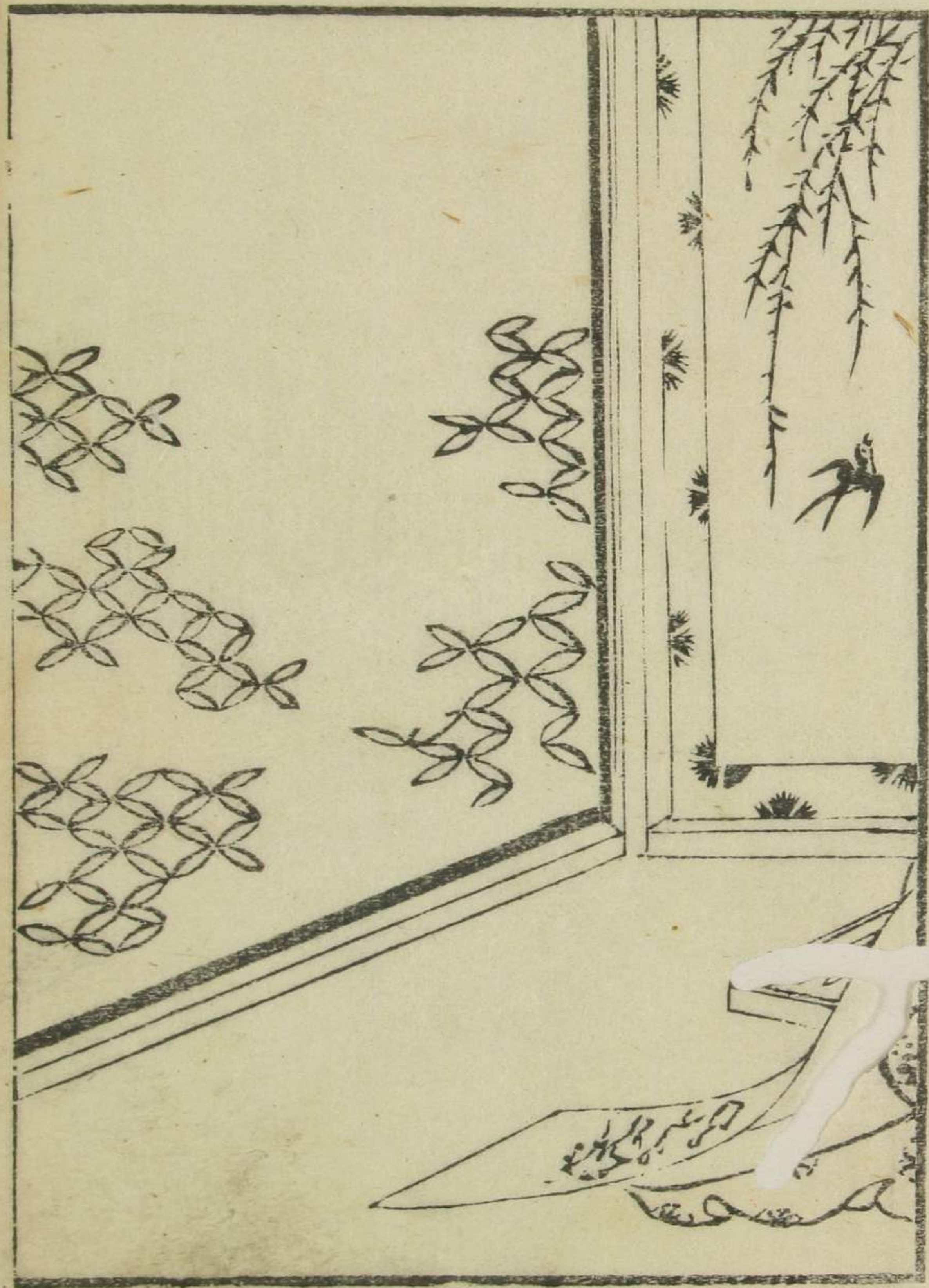
紙と貫ふ

東風亭

ひろしほき

如栴誌





雪の図

品目

一 史記の卷から

狂言のひびき 幕

一 壽のぼりて

愚民の幕

一 すけの巻

口舌の世話 幕

史記

群賢圖書

金の鯨 辰巳の女 大磁

おづくら 危き近き

志気 名子も 神を

いそと 七も 浮れて

筆尖の始 若毛は

所が 連願 巻あ

の生 存在 船 諸侯の如く 倍臣

暮しくハ勢いぬん三人の床屋
 くの次月中合口子扱もあつて
 哉りふるゝ突情とちる口説ある
 神々多迷ひ突山しして何る
 だヨウ おまじ申すの一声ふ
 子哉より夢の風恐るる潮来を
 焼く下のあるる幼畧枕不
 扱るぬぬん送る舟の屋

絶の義女を伴ひて五湖ふ
 絶が昔もかくやと思ひ
 親おの良女を母より下駄を
 帰る廻しおれを上州の懐と
 へい付て提て来る船泊る
 けとあゝの束ねる不泣血を
 茶屋に陽をて外の家やへ行
 神るあるとちるをせん

朝あめを物にのめづらし家とを梅と梅ふぬ
 又のこりせし免れぬるも是皆女色
 の通ひあるは情しけしむきハ地をた
 んと惜しがぬふをの梅がたは
 送ひある色又梅や梅あんななるふ
 ちくれことよふ人物を和漢にげて
 かぞへがこし目つ思を恐るる梅子
 妖洞土利

深泉 遊子

仲街艶談

戲家山人

八幡相

ホラ ウラ

折々を所辺のりまのりまのりま

女ヲヤ

後治とんおつらんあせ下 治のりまあてん
 後女 治のりまあてんあせ下 治のりまあてん
 ちよんあひてんあせ下 治のりまあてん
 せせうんあせ下 治のりまあてん
 の板のりまあてんあせ下 治のりまあてん
 おれあせ下あせ下あせ下あせ下あせ下あせ下

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of approximately 12 lines of text, starting with a large initial character. The script is highly stylized and difficult to decipher without a key.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. A small square box containing a character is visible in the second line from the top. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines. A small square box containing a character is visible in the second line from the top. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes.

おぼろげな母の影をのぞきわらわらうよ目のま
でさくらうのはまきおーくんとせやせう太
すまーちれあきまらせうさひり母の影ひねらうらうら
うんおわらびおまじがう顔まあらうらうらうら
う海へくまうてくわらわらうらうらうら
でまおとて春野がはらうらうらうら
ま車ーうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

かおまおまおまおまおまおまおまおまおま
はあめてしーうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうら
てもしよふらうらうらうらうらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうら
とまかんうらうらうらうらうらうら
まらうらうらうらうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうら

大 足れいんちんまもくしんせき ト小春のちり紙

白くちあこほらうらなひとてふたふたのちり紙 か

カ 春 それいんちんまもくしんせき ト小春のちり紙

まんにわりのちり紙 ト小春のちり紙

帯のいんちんまもくしんせき ト小春のちり紙

ちり紙 ト小春のちり紙

ちり紙 ト小春のちり紙

ちり紙 ト小春のちり紙

男けいーやうこぬ種を何まきーめーら
合くまーすきるとーつアうくやよ
まーいこやうとーやうるまをいぬるそな
何屋らややうまーんはけぬはくそんる物を
おー行やのけうー口ておーめのくそうてあす
この肉くはらうとくか何換入つくあゆ
いん非今く居くいく依いんく自あの
みどもいすてその肉ぬ榮やいんくさされて

まよとまけいあまなすくいんぬ種やのそん
料がけくわな麻づくらくそんるあまこら
けーやうとーたがらく同らうくせうらん
まーいこやうとーやうるまをいぬるそな
おーいぬるまをいぬるそな
なせんやうくまーんるうらやまらむせん
あんまらうてごせんやと
あづらふーぬもまはまらひんこらんごら

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is dense and fluid, with some characters appearing to be stylized or abbreviated. The lines are roughly parallel and fill most of the page area within the border.

Handwritten text in a cursive script, likely Arabic or Persian, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 10 horizontal lines. The script is dense and fluid, with some characters appearing to be stylized or abbreviated. The lines are roughly parallel and fill most of the page area within the border.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular border. The characters are highly stylized and interconnected.

112

Handwritten text in a cursive script, similar to the right page. It is arranged in approximately 12 horizontal lines within a rectangular border. The text is highly stylized and interconnected.

春

Additional handwritten text at the bottom left of the page, continuing the script from the main block.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript. The text is written in a dark ink on aged paper. It consists of several lines of text, with some characters enclosed in small square boxes. The script is dense and flowing, characteristic of a cursive hand. The text appears to be a record or a list of items, possibly related to a collection or a specific event. The boxes around the text suggest it might be a page from a bound volume.

B+

Handwritten text in a cursive script, similar to the one on the opposite page. It is written in a dark ink on aged paper. The text is organized into several lines, with some characters enclosed in small square boxes. The script is dense and flowing, characteristic of a cursive hand. The text appears to be a record or a list of items, possibly related to a collection or a specific event. The boxes around the text suggest it might be a page from a bound volume.

ちるあー種々の書 ラヤ 飯沼さんまじり ぬね 春お
 著るんやうはあ母こ下け トの女 ぬね
 次 二つのすりせく 女 けしろく 酒ハモウしんらう
 べいぢりすかん 春 二つの後ろぬん
トの 女 ぢかん すかん く 次 ラヤ より 下 角 より か
母 バイ 星 く ト の お で ア イ 川 を 母 こ ん や
 べいぢりすかん く 母 こ ん や
 おぢりすかん く 母 こ ん や

ちるあー種々の書 ラヤ 飯沼さんまじり ぬね 春お
 著るんやうはあ母こ下け トの女 ぬね
 次 二つのすりせく 女 けしろく 酒ハモウしんらう
 べいぢりすかん 春 二つの後ろぬん
トの 女 ぢかん すかん く 次 ラヤ より 下 角 より か
母 バイ 星 く ト の お で ア イ 川 を 母 こ ん や
 べいぢりすかん く 母 こ ん や
 おぢりすかん く 母 こ ん や

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is enclosed in a rectangular border. It consists of approximately 12 lines of writing. A small square seal or mark is visible near the bottom center of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is enclosed in a rectangular border. It consists of approximately 12 lines of writing. A small square seal or mark is visible near the top center of the page.

かゝるものありては、
[春] 昔は、
中、
[春] 今、
[春] 昔は、
乃、
[春] 昔は、
[春] 昔は、

又、
[春] 昔は、
[春] 昔は、
[春] 昔は、
[春] 昔は、
[春] 昔は、
[春] 昔は、
[春] 昔は、

あひうらふまらうと筆はすそぬ
右後筋深く何ううらんふ入
そまうりゆ

跋

神僊しんせんとは何とや霞くさと喰くひ虹にじと春はる
飛行ひこう自在じざいする事ことを得え長壽ちやうじゆ深ふか
舞まと云ふよ何とや今いま戲家あそびやの親玉おんたま
づ着速ちやくすみなと血ち乃の深泉ふかみづの美食びじきと
喰くひ海うみとの飛ひ行こうの緒いと牙がと
駕かとんども固かたと行ゆく者もの故ゆゑありと

琴高鐘離推の仙術も
 不及や近き後山
 には玉り神を婦に挑灯
 作の歩いこの曲乃美声よ
 先暗筋夢中と朱而此
 作吟吟玉増の猪身早
 也一方快ハイあ迎ハ足
 三人金御よ
 乙中街
 何よあ
 美声よ
 朱而此
 猪身早
 あ迎ハ足
 足
 足

十四

通くねく癡ましくねく樂む
 と恋くくと恋あらずや
 何ぞまのく指り指のたは
 や
 まいりくめうり足
 癡ましく
 恋あらず
 指のたは
 足

我樂云

東澤木述

仲街艶談
笈番目

土橋新話
小本
冊

小のり
とら
らん
のむく
のむく
らん
らん

寛政十一己未歲
正月吉辰

群督圖書

20
M

115457

115457

